

## 平成30年度 学校評価後期報告（石川県立医王特別支援学校小松みどり分校）

児童生徒10人、保護者10人、教員8人

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準 (判断基準A+B 70%以上)	集計結果	分析（結果と課題及び改善策等）	
1. 児童生徒の自立 (1)生活習慣を身につけるとともに社会性を養う。	① 登下校時に自分から進んで挨拶を行う。 保→①、児→①、教→①	指導課	A：挨拶が十分できた B：挨拶がだいたいできた C：挨拶が少ししかできなかった D：挨拶ができなかった	A：1（児生） 1（保護者） 1（教員） B：3 3 6 C：3 4 1 D：1 1 0	児童生徒：A+B50%→50%、保護者：A+B25%→44%で、児童生徒は変化がなかった。保護者は前期より評価がやや上昇しているが、目標の達成には至っていないため、今後も教員から積極的な声かけを続けていきたい。	
	(2)学力をつける。	② 自主的な学習を行い、学習の遅れを補う。 保→②、児→②、教→②	教務課	A：毎日した B：ほとんど毎日した C：あまりしなかった D：しなかった	A：0（児生） 1（保護者） 0（教員） B：4 4 6 C：1 0 2 D：3 4 0	児童生徒：A+B50%→50%、保護者：A+B75%→56%で、児童生徒は変化がなかったが、保護者はやや減少であった。今後も基礎・基本の学習を中心に「わかった」「できた」と実感できる経験を積み上げていきたい。
	(3)家庭との連携に努める。	③ 保護者と児童生徒の病状や生活について十分話し合う。 保→④、教→③	総務課 教務課	A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	A： 5（保護者） 3（教員） B： 3 5 C： 0 0 D： 1 0	保護者：A+B100%→89%で減少であったが概ね評価をいただいている。今後も丁寧に話し合いを行い、保護者の理解を得られるよう努めていきたい。
2. 教職員の資質の向上 (1)教科の専門性を高め、指導力・授業力の向上に努める。	④ 指導法の改善や教材研究に努める。 (児童生徒にわかりやすい授業を行う) 保→⑤、児→⑤、教→④	教務課	A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	A：2（児生） 0（保護者） 3（教員） B：1 3 5 C：3 2 0 D：1 3 0	児童生徒：A+B71%→43%、保護者：A+B50%→43%で減少している。今後、より一層良い授業を目指して授業改善に努めていきたい。	
	⑤ 外部の研修会に参加する。 教→⑤	教務課	A：年に3回以上参加した B：年に2回参加した C：年に1回参加した D：参加しなかった	A： 3（教員） B： 5 C： 0 D： 0	教員：A+B100%。全教員が授業研究会や指導方法等の様々な研修会に複数回以上参加した。今後も専門性・指導力向上に向けて取り組んでいきたい。	
	⑥ 公開授業や研究授業を実施する。 教→⑥	教務課	A：年に3回以上行った B：年に2回行った C：年に1回行った D：行わなかった	A： 0（教員） B： 5 C： 1 D： 0	教員：A+B100%→83%でやや減少であった。今後もより一層授業改善の意識をもって取り組んでいきたい。	

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準 (判断基準A+B 70%以上)	集計結果	分析（結果と課題及び改善策等）
(2)児童生徒の理解と安心して学べる環境整備に努める。	⑦ 教員が児童生徒の病状について理解を図ると共に個別の教育支援計画を作成し、児童生徒のニーズに応える。 保→⑦、教→⑧	教務課	A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	A： 3（保護者） 3（教員） B： 4 5 C： 0 0 D： 1 0	保護者：A+B71 %→ 88 %で評価が上昇した。三者懇談会の際の話し合いに個別の教育支援計画を活用したことが評価されたと考える。今後も個別の教育支援計画を基に保護者と話し合いを行い、個々のニーズに応じた支援を続けていきたい。
3 センターの機能 (1)医療機関及び関連機関との連携に努める。	⑧ 病弱教育の資質の向上を図り、センターの機能を強化する。 保→⑧、教→⑨	指導課	A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	A： 5（保護者） 5（教員） B： 3 2 C： 0 1 D： 1 0	保護者：A+B88 %→ 89 %で概ね評価をいただくことができた。今後も保護者等からの相談依頼に対して丁寧な対応を続けていきたい。
	⑨ 医療機関と児童生徒の病状等について情報交換を行う。 教→⑩	保健課	A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	A： 5（教員） B： 3 C： 0 D： 0	教員による評価は、A+B100 %→ 100 %であった。今後も十分な情報共有に努め、保護者からの信頼に応えられるように努力していきたい。
(2)前籍校・小中学校との連携に努める。	⑩ 前籍校と、児童生徒の前籍校への復帰について意見交換を行う。 教→⑪	総務課	A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	A： 1（教員） B： 6 C： 1 D： 0	教員による評価は、A+B100 %→ 88 %でやや減少であった。教員は、児童生徒が不安を解消し、前籍校復帰や卒業など先の見通しが持てるように意見交換をしているが、十分ではなかったと考えられる。今後も教員間で共通理解を持って、児童生徒への適切な支援につながるようにしていきたい。
4 教職員の効率的・効果的な時間管理の推進 (1)業務終了時刻を意識して、教材研究や授業準備、校務分掌等の業務の遂行に努める。	⑪ 時間外勤務の縮減に向けて、各種会議や校務分掌等の業務の見直しを行う。 教→⑫	総務課	A：十分満足できる B：満足できる C：あまり満足できない D：満足できない	A： 6（教員） B： 2 C： 0 D： 0	教員は、時間外勤務の縮減の意識を持って業務に取り組んでいる。時間外勤務時間の月平均は、昨年度の同時期から 6.8 時間減少している（41.1 %減）。